

# 中学校教科等研修講座(理科)

教科等指導員 西中学校 教諭 伊藤 克彦

担当指導主事：増田 朋之

キーワード：主体的・対話的な学び、思考力・表現力、共有化

## 1 実施概要

| 実施月日     | 講師等              | 場所・形態            | 演題（またはテーマ）                       |
|----------|------------------|------------------|----------------------------------|
| 2月13日(火) | 西中学校<br>伊藤 克彦 教諭 | 西中学校<br>理科室 研究協議 | 「主体的・対話的な学びの実践」<br>～授業記録からふりかえる～ |

## 2 主な内容

1月13日に行った公開授業実践をもとに、「主体的・対話的な学びの実践」と「思考力・表現力の向上」を主題として、どのように授業を展開していけばよいか研究協議を行った。

公開授業では、生徒に実験をさせるだけでなく、実験データをどのように扱い、まとめればよいかを生徒自らに考えさせた。また、考察した内容をホワイトボードを使用して他者に説明させた。その際、説得力のある内容にするためには、ホワイトボードにどのように表現し、文章で説明を加えればよいかを考えさせた。

「主体的・対話的な学び」となるよう、授業において生徒自らに考えさせたり、表現させたりする利点や欠点、指導の場面での留意点などを協議した。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ① 実験を行うだけでなく、データの扱い方や捉え方を生徒自らに考えさせることは、思考力を向上させ、深い学びにつながる手立てとなることがわかった。
- ② ホワイトボードを使用し、自分達の考察を他者に説明させることは、どのような表現方法が分かりやすく説得力のあるものになるかなど、生徒同士の活発な意見交換を生み、対話的な学びをさせることができるとともに、表現力も向上させらると思える。
- ③ 上手くまとめている班のホワイトボードを、実物投影機を用い拡大して明示することは、思考の焦点化・共有化に効果的であることがわかった。

### (2) 課題

- ① 思考が浅いと、「主体的・対話的な学び」が単なる「話し合い活動」で終わってしまい、「深い学び」につながらないと思えるので、形式的な活動にならないような配慮が必要である。
- ② 生徒が主体的に取り組み、活発に対話する習慣が身につくには、時間が必要と考えられるため、3年間を見通した長期的・継続的な指導が必要である。